

町長所信表明

平成30年津南町議会第2回定例会を開催するにあたり、所信を申し上げます。

私こと、このたび津南町長選挙におきまして、町民の皆様からあたたかいご支援をいただき、第6代の津南町長という重責を担わせていただくことになりました。町政におきまして初の女性町長となります。

私は、二人の子供を産み育てる母親です。津南の子供たちが閉塞感漂う町で育つのではなく、希望や可能性を感じる町で育ててほしいという思いがございます。春になると、多くの若者が進学や就職のために町を出て行きます。彼ら彼女らの心の中にある「津南」が魅力を増し、若者たちが津南に帰りたい、住み続けたいと思える町にしなければなりません。

かつて、大きな時代の流れの中において、人手を求めている都市部に多くの若者が労働力として吸収されていった結果、戦後復興を果たし、高度成長が実現しました。しかし、都市への過度な集中が、国としてもせい弱であることを私自身、東日本大震災で目の当たりにしました。津南のような町を豊かに守っていく先に、この国の明るい未来があると考えております。

これから、津南町の課題の中で、取り組みや発想の転換が遅れてきた部分を根っこから洗い、一つひとつ道筋をつけ、生活の改善をしていきます。これから津南町に生まれる小さな命も含め、一万町民の生活を守っていく強い覚悟です。

私は、自らが訴える思いを前に進めるために、「希望と愛、参加できるまちづくり～未来をつくる子どもたちのためにいま、立ち上がろう～」という政策を訴えてまいりました。

「希望」「愛」「参加」の3つの大きな柱を軸に、私の所信の一端を申し述べます。

第一の柱は、「希望のまちづくり」です。

具体策の一つ目は、「大規模農家も小規模農家も共存共栄、儲かる農業」です。我が町は「農業立町」という意思を明らかにした、全国でも稀な自治体でございます。先人が築いてきた基盤をもとに、米を中心に、野菜、花き、畜産などに果敢に取り組んでいます。今後、時代の変化や気候変動にいち早く対応した農政を打ち出すために、生産の現場に精通した農業専門人材を町に置き、先んじて策が打てるように、産地づくりをサポートしていきます。

また、農産物の販売面では、国や県、企業とつながりを深め、マーケティングに力を入れるとともに、国内外の新たな販路開拓のために、私自身トップセールスを行ってまいります。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックの後は、海外のお客様が増えることを念頭に、生産者と宿泊施設・飲食店の間の地産地産の取り組みを進め、地元の産物を地元で楽しんでいただくようにしてまいります。

二つ目は、「津南町独自の価値である『文化』を観光資源に」です。町のそこかしこから土器が発掘され、ドキドキな歴史を持ちます。歴代の町長のご英断で長年、文化財の保護・活用への投資を続けてまいりました。それを最大限に活かし、我が町は「雪国文化」と「縄文文化」の「文化立町」でもあるということを高らかに掲げてまいります。

今後の町政では、「農業立町」「文化立町」を軸に、「津南」と名前を聞いただけで欲しくなる（物産）、訪れたいくなる（観光）、住みたいくなる（移住定住）という津南ブランドづくりを進めます。ブランドづくりの具体的な処方箋が、地域と協同して観光地域づくりを行うDMOであります。観光関係者だけでなく、多様な主体が参画し、農業、観光、移住定住のキャッチコピーがそれぞれ違うということではなく、明確なコンセプトに基づく、統一したブランド管理をしていきます。

第二の柱は、「愛あるまちづくり」です。

具体策の一つ目は、「安心できる質の高い地域医療・介護」です。適

正な地域医療を確保することで、町民の健康と安心を担保いたします。周辺医療資源との連携を進め、町立津南病院は一次医療を担う医療機関として、必要な診療体制の整備、十日町市から北信をカバーする救急体制の整備、在宅医療・看取り、疾病予防対策強化に特化することがベストと考えています。

運営の健全化により、町民や町の財政をはじめとする負担の軽減のために、今後、運営のかたちも検討してまいります。

身近な介護サービスを町民のみなさんから知っていただく取り組みを進めるとともに、切れ目のない医療・介護のかたちを作ります。

二つ目は、「子どもの育ちを家庭や地域とともに全力疾走」です。新保育園を建設する方向で進め、子どもたちが過ごしやすい、快適な環境整備を行うと同時に、待機児童対策に取り組みます。子育て中の親たちが育児中にホッとできる場づくり（カフェ）を進め、リフレッシュしながら、子どもとの愛着形成を支援します。

時代の変化のスピードがより早く、国際化が進む時代に生きる子供たちが、他者を思いやる力、自分の言葉で表現する力など生きる力を身につけられるように全力で支援してまいります。

三つ目は、「ここで暮らすためのインフラ整備に果敢に挑戦」です。町民の生活に必要なインフラ整備のために、積極的に現場に出向き、対話をしていきます。また国道 405 号の改良、灰雨新トンネルの早期完成に向け、引き続き関係機関と連携し活動していきます。

第三の柱は、「参加できるまちづくり」です。

具体策の一つ目は、「中心市街地の活性化」です。

商工業者と定期的に話し合いの場を設け、商工会と行政がより連携を深め、商工業の元気を支えてまいります。特に商店街の空き店舗については、町内外から様々な意見を募り、町民の交流活動や起業の拠点としていきます。

二つ目は、「『関係人口』の拡充」です。「定住人口」でも「交流人口」でもない人々を指す「関係人口」という概念があります。津南町に縁や

所縁がある人々や関わりを持ちたいと思っている全国の人々を、将来にわたって町の活力になって頂くために「(仮称)津南サポーター(第二町民制度)」を検討してまいります。

そして、これら三本の柱「希望のまちづくり」、「愛のあるまちづくり」、「参加できるまちづくり」を効果的に実現していくために、町内の関係者の皆さまとの徹底的な対話を行いながら、町外の有識者や実務者との関係も積極的に構築してまいります。

最先端の知見や国内外の取り組み事例を参考にしながらも、独自色のある取り組みができるよう機動力のある組織づくりを行います。

その際、時代の変化や技術の進歩に柔軟に対応することを念頭において、失敗を恐れずに挑戦する人たちを全力で支えていきたいと考えていますし、私自身もそうありたいという覚悟です。挑戦する人たちに溢れる町であることこそが「津南ブランド」を確立する基礎になると考えております。

最後に、歴代の町長が多く困難がありながら、町民とともに切り拓いてこられた道を踏みしめ、さらに歩みを進めていく強い意志でございます。限られた資源で、よりよい町民生活を実現していくために、町民の皆さまと行政の関係をより近くし、一緒に町をつくらせていただきたいと考えております。その先頭に立って誠心誠意努力いたします。議会の皆さま方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます、所信表明といたします。